

令和4年度東海三県二市知事市長会議

日時：令和4年9月5日（月）13：00～14：20

場所：名古屋市国際展示場 コンベンションセンター

<開会>

（事務局長） 開会に先立ちまして、報道関係の方をお願いを申し上げます。知事市長席周辺での撮影につきましては、開催市長挨拶までの間とさせていただきます。それ以降につきましては、報道席または関係者席の後方にて取材いただきますようお願いいたします。

ただ今から、令和4年度東海三県二市知事市長会議を開催いたします。

私は、本日司会を務めさせていただきます名古屋市総務局企画調整監の武田でございます。どうぞよろしくようお願いいたします。

<開催市長挨拶>

（事務局長） それでは開会にあたりまして、開催市の河村市長からご挨拶を申し上げます。河村市長、よろしく申し上げます。

（河村市長） それでは慣例によりまして開催市が議長ということで、運びの方をやらせてもらっているところでございますので、よろしく申し上げます。

これはまた本当にフレッシュな会場で、公式の会合をやるというのは初めてじゃないかな。オープンは10月1日だったかな。その前にぜひこの会議をやらせていただきます。こんなところでコロナにかかると不都合があるので、マスクをしていると苦しいですけどね。まあしかし、いろいろ見ている人も多いので、こうしましたということでございます。この展示場は名古屋駅から直通だと16分か17分ということでございますので、せいぜい皆さんにもご利用をいただきたいということでございます。

今日のテーマは、書いてあるところによりますとアジア・アジアパラ競技大会とか、この地域ですね。それからリニアの開業ということで、ビッグプロジェクトがありまして、ぜひ皆さんと、おもしろおかしく盛り上げていくのが重要ではないかということでございます。今日は「コロナ」と「国内外誘客の回復」ということでございまして、皆さんで連携していろいろやったほうが当然効果も上がるということで、お願いしたいと思っております。いろんな意見交換ができればと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

<協議話題1>

（河村市長） まずは協議話題の1番から、コロナの対策についてでございます。これは岐阜県の古田知事からのご提案でございますので、古田知事から提案趣旨等についてご説明をお願いいたします。

(古田知事) 3年ぶりの(対面の)三県二市知事会議ということで、今日はすばらしい施設も見せていただきましたし、久しぶりに皆様方のお元気そうなお姿を生で拝見して、大変うれしく思っているところでございます。また、河村市長におかれましてはいろいろとご配慮をいただきまして、大変ありがとうございました。

(河村市長) いえいえ。

(古田知事) またよろしくお願ひ申し上げます。

今日の最初のテーマはウイルスで、これは前回もそうでしたけれども、足並みをそろえて現状報告もしながらやっていこうということで、しばしば三県知事会議のほうではやらせていただいておりますけれども、最初のテーマとしてはやはりどういうふうに変わりつつあるか、状況について認識を共有したいと。また、それぞれの対策についても意見交換をさせていただきたいと、このように思っている次第でございます。

私どもの資料をご覧くださいますと、僭越ながら三県の推移を見てみますと、ほとんど、ウイルスの三兄弟という感じで、新規感染者数が推移しているわけですが、このところの10日、2週間は着実に減ってきております。今日も岐阜県は新規が1,053人ということで、間もなく1,000人を切るところまで来ている状況でございます。それから病床使用率は、今日現在で50%を切りまして、49%までになりました。これも今の減少傾向を反映しているということでございます。

2ページ目に、第1波から第7波まで、陽性者数のみならず重症率とか死亡者数、死亡率を出しております。ちょっと気になりますのは、死亡率、致死率は少ないんですけども、やはり分母が大きくなるとどうしても分子も大きくなるということで、死亡者数がこのところ非常に多いと。それが気になるところでございます。

お手元の補足資料で、私どもが9月2日付で決定した、内容的には「BA.5対策強化宣言」の対策期間を9月末まで延長するというところでありますが、この真ん中辺をご覧くださいますと1から4まで書いてあります。コロナ医療のみならず一般医療についても深刻な状況が生じておるということでございまして、医療従事者の感染急増によって一般病棟における入退院制限とか、救急医療の制限が行われていると。それから8月の救急搬送困難事案が非常に多くなっており、保健所の対応も限界だと。後でまた申し上げますが、全数把握についてもやはり負担になっておるといようなことで、何と言っても新規感染者数を減少させながら対策を進めていく必要があるということで、9月いっぱいこれを延長した次第でございます。

内容は次の2ページ目にありますが、全数把握につきましてはすべての陽性者に適切な医療・保健サービスが提供できるということと、適切なサーベイランスを行っていくこと、現場の負担軽減、この3つのベストミックスを実現していくということです。私どもの対応は、発生届出での届出項目を18項目から8項目に減らすことで入力作業も約半分

に減少するというところで、9月3日からスタートしております。私どもの承知していることでは愛知県さんも類似の対応をしておられるということですが、最後のページをご覧くださいと必須届出項目があります。このうち、低リスクですね。感染者のうちの低リスクというのは、全体の大体8割を占めております。8割の方々の届出項目のうち18分の10、約6割をカットすると、8割の6割カットですから $8 \times 6 = 48$ で、実質は半減ということでございます。これで現場は何とかやっつけていけるということをおっしゃっております。

それから病床をさらに増やすとか、これは特に国に対して強くお願いしているところがありますが、保護者のワクチン接種努力義務ということが今回言われております。なぜこのタイミングで努力義務化したのかということについて、より丁寧な説明を、国としてのきちんとした説明をお願いしたいとおっしゃっております。夏季休業明けの学校運営については、さまざまなチェック項目を設けておりますが、特に私どもは甲子園で感染が岐阜県代表にありましたものですから、もう一段、部活動について丁寧なチェックをするということにしております。

4ページをご覧くださいと市町村との協力ということで、市町村には福祉施設とか飲食店について、すべて巡回訪問を今お願いしております、それによって予防的検査受検のパーセンテージをどんどん上げてもらっておりますし、飲食店の換気対策の補助金を急速に各地で活用していただいております。若年層への接種の働きかけも、今一生懸命やらせていただいております。そういう中で、4回目接種率は高齢者（対象者ベース）が72.4%で、総人口ベースでは60歳以上が65.4%ということで、全国第1位となっております。

医療機関への要請ということでは、お盆休みに何とかあけてくれと。病院をあけることによって特定の病院に集中するのを避けることができるということで、お願いをしたら大変協力してもらったんですが、ここまで来たら当面休日はもう病院をあけてくれということで、開業医に協力をお願いしています。現時点でも、通常は117機関があけているところ223機関ということで、ほぼ倍増し、少し落ち着いた対応をしてもらっているということでございます。全体として緩やかな減少局面に入ってきましたけれども、一般診療も含めて注意深くやっつけていこうということでございます。

もとに戻りまして、岐阜県本体の資料の4ページ目ですが、補正予算を通じて生活者への支援とか事業者への支援をきめ細かくやらせていただいております。ちなみに私どもは、令和2年の3月以来、コロナが始まって以来、この6月の補正予算が第29次補正予算となり、30カ月で29回の補正予算を出したというような状況でございます。この9月に第30次補正予算ということで、できる限り柔軟に、必要なところに必要な支援を投入するというので、丁寧にやらせていただいているわけでございます。

今日は愛知県さん、三重県さん、名古屋市さん、浜松市さんのほうに、ここら辺の実情とか対応を伺いながら、さらにまた私どもも認識を深めさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

(河村市長) ありがとうございます。

それでは、この件につきまして順次ご発言ということで、愛知県、三重県、名古屋市、浜松市の順番で発言をお願いします。時間の都合上、4分程度でお願いします。それでは愛知県からお願いいたします。

(大村知事) それでは愛知県です。私からコロナ対策について、この現状についてご報告をさせていただければと思います。

その前に、今日は河村市長と名古屋市さんにこちらの設営を担当していただきまして、心から感謝を申し上げます。また、10月からオープンする国際展示場を事前に拝見させていただきまして、厚く御礼を申し上げたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それではお手元の愛知県の資料をご覧くださいながらお聞きいただければと思います。簡潔に申し上げます。感染症の現状ですが、A4横で1ページ目が第1波から第7波までの状況で、第7波は非常に山が大きかったということではないかと思っております。私たちは6月21日から第7波ということで整理をしております。

2ページはその第6波、第7波だけを見たものですが、第6波だけを見ても第7波が非常に大きかったということが言えるのではないかと。途中、お盆時は少し減っておりますが、お盆前からお盆明けにかけて非常に厳しい状況であったということですが、8月24日から前の週よりも減りだして、ようやくピークは過ぎたかなと思っております。8月17日に、1日では過去最多の1万8,985人と、要は1万9,000人のところまで行きましたが、今は1週間平均では1万を切り9,000人ぐらいということで、ようやく減ってきております。今日も、まだ概算ですが、県と名古屋市さんとで2,100ぐらいということで、中核4市を入れても2,700~2,800で、1週間前は4,000ですので明らかに減少傾向が顕著になってきております。

ただ、いずれにしてもまだこの水準ですので非常に厳しいということで、私どもは「BA.5対策強化宣言」を9月30日まで延長しました。3ページであります。こうした対策をやらせていただいております。

4ページは医療提供体制で、入院の最大確保病床数は2,540床です。検査体制は、検査の可能件数が1日あたり、多いときで9万5,000件となっております。5ページはワクチン接種でございまして、4回目をやっております。(接種)対象(に対する割合)で言えば65%を超えるくらいということでありまして、この後に5回目、それからまた新たなワクチンの接種体制を組んでいきたいと思っております。6ページは県の大規模集団接種会場です。

7ページは、さまざまな商店街対策、観光需要対策、また、省エネルギーといいますが、燃油高騰対策など、さまざまに対策を組んでいます。8ページは、そうしたウィズ・コロナ、ポスト・コロナに向けた対策ということでございます。

いずれにしても、ようやく大きな山は越えてきたかとは思いますが、まだまだ警戒を緩めるわけにはいきませんし、9月から学校も始まっておりますので、その状況をしっかり把

握しながら、感染防止対策の徹底と社会経済活動を回していくということの両立を、引き続きしっかりとやっていきたいと思っております。また、愛知県内の各市町村の皆さんとはもちろんですが、東海三県二市の皆さんとも一緒に連携して、感染症をしっかりと抑え込んでいきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。以上です。ありがとうございました。

(河村市長) ありがとうございます。それでは三重県、お願いいたします。

(一見知事) 河村市長、ありがとうございます。三重県の一見でございます。

コロナに関して三重県のご説明を差し上げる前に、まず本日のこの会議をセットしていただきました河村市長をはじめ、名古屋市の皆さんに感謝を申し上げます。また、先ほどは立派な施設を開業前に見せていただきまして、こんなにすごいのはやっぱり大都会だからかなあということで、感服をしたところでございます。どうもありがとうございました。

それでは、三重県の資料に入らせていただきたいと思えます。1ページをご覧ください。コロナの状況でございますけれども、8月5日に三重県も「BA.5対策強化宣言」を出しまして、8月19日、2週間目には延長したということでございます。9月4日期限でやっておりますけれども、1週間延長しております。

その理由でございますけれども、まず感染者数は12日間連続で前週の同じ曜日を下回っておりますので、これは岐阜県さんや愛知県さんと同じような状態、ダウントレンドに入っているのは事実でございます。それから病床使用率ですが、先週の火曜日から金曜までは50%を下回っているということでございます。今50%と言いましたが、昨日は53%でしたけれども、ほぼほぼ落ち着いてきている状況です。一番多かったのは8月24日で、感染者数が4,673名でしたが、今日は午後発表いたしますけれども830人で、1,000人を下回り、かなり落ち着いてきている状況です。私どもはこの「BA.5対策強化宣言」を9月4日から9月11日まで1週間延長しましたけれども、このままの状況でいけば9月11日に脱却できるのではないかと考えているところでございます。

2ページをご覧くださいますと、先ほど申し上げました病床使用率でございます。ここが50%を上がったり下がったりするような感じでございます。これが第7波の特色かもしれないけれども、ストンと下がらないところがありまして、5波、6波とはちょっと違うところでございます。

我々の対策でございますが、3ページをご覧くださいたいと思えます。三重県は去年の10月18日に、私が知事に就任させていただいてからほぼ1カ月のころでございましたけれども、コロナの戦い方は4つのポイントでやろうと。ここに書いてある①から④は、第6波もこれで戦ってまいりましたし、第7波もこれで戦ってまいりまして、このやり方でほぼほぼ問題ないだろうとして、県民の命、健康を守るということでやらせていただいているところでございます。アラートについては、既に出させていただいております。

検査体制の整備ですが、今回の第7波は第6波までと違って、先ほど大村知事もおっし

やいましたように社会経済活動を回すというのが大前提だと、私も思っております。守るべきは、大きく言うと2つですね。1つは、高齢者の命を守らなければいけないということ。もう1つは、医療関係を崩壊から守らなきゃいけないということ。さらにつけ加えるとするならば、急に重症化する人を守らなきゃいけないということでございます。主に高齢者と医療崩壊を防ぐということでございまして、検査体制の整備では検査キットを配って登録センターをつくりました。これは医療関係の崩壊を防ぐために、登録センターで受けられる者は受けるということです。高齢者施設の社会的検査も、今までは2週間に1回だったのを1週間に1回に拡充しまして、高齢者施設に外から持ち込まれるウイルスを何とか遮断しよう。こういうことでやらせていただくと、一時期は高齢者施設のクラスターが多かったんですが、徐々に少なくなってきました。

そしてワクチン接種体制の整備、これは必要でございます。例えば海外から戻ってくる人は、3回接種をしていけば帰ってくるまでのPCRは受けなくていいような形にすると、ワクチン接種が進むということになりますので、これは国にぜひお願いしたいところだと思っております。

医療提供体制の整備でございます。病床が587床で、当初私どもが考えておりましたのは560床ぐらいでした。が、プラス25床ぐらい、三重県の医療機関の方々にご協力いただきまして、増やしていただきました。7月21日に県独自のアラートを出したときよりも100床以上の増で、これは県の医師会にもかなりのご努力をしていただいて、非常に感謝しております。それから酸素ステーションをつくったりもしましたし、後方支援病院にも対応していただいております。

発生届の提出対象の見直しですけれども、三重県は9月2日に国に届出をしまして、9月9日から実施をすることにしてございます。4ページをご覧くださいますと、実施前はすべての患者を発生届にて把握、HER-SYSとありますが、これは医療機関の負担がかなり多かったです。特に診療所、クリニックですね。お医者さんが診療を終わってからそれをやらなきゃいけないので、かなり大変だということでした。保健所の負担もかなり多かったです。ショートメールでメッセージをいろいろ送ったりしておりましたけれども、保健所もパンク寸前ということでございました。それが、9月9日に実施をいたしますのは非常に簡単で、3つのポイントです。「名前」と「生年月日」と「住所」、簡単な住所を入れるだけ。これで個人が特定できれば、どなたが陽性だったのかということをお知らせ救急病院にお伝えすることもできますし、診療記録も発行することができます。したがって、このやり方でやると非常に簡潔にやれるということです。

当初、私どももHER-SYSの項目を絞れないかと考えていたんですが、この3つに絞ることはできないということでございました。この3つだけで本人を特定できますので、簡単だと。これはクラウドを構築しますけれども、これもとても簡単で、金額的には200万程度でできまして、それも国の交付金でやれますので、この項目であれば医者が入力する必要もないということでございます。これで情報を把握しまして、もし急変する方がおられたらフォローアップセンターへ連絡をすると、これはクラウドなので一覧表ができるので

す。それを見て、あ、この方は陽性だったのかということですのですぐに対応ができるわけでございまして、こういうやり方をしようと思っています。

5 ページをご覧くださいますとコロナの中の観光ですが、経済活動は回さなきゃいけない、回していこうということでございまして、4月以降に県民割をやっております。これは左側の地図にありますように、愛知県さん、岐阜県さん、静岡県さんとも一緒にやらせていただいております、既に54万人が利用して、非常に好評を博しているところでございます。経済を回しながら守るべきところを守る。これが私どもの戦い方でございます。以上でございます。

(河村市長) ありがとうございます。

そうすると次は名古屋でございますが、今後ろから持ってきたのは本日の感染者数で、850人でございます、まあまあ減ってきましたということでございます。それから、簡易的にやるということで陽性者登録センターというものをつくりまして、名古屋の場合はまず先に登録をしてもらっております。

それからワクチンです。ワクチンは、名古屋は実は水ぼうそうとかおたふく風邪とかロタウイルスとか、特に子どものワクチンについては日本をリードしていると言ってみえる方もあるんですが、今度のやつは、このメッセンジャーRNA ワクチンはなかなか強いというんだね。ですから子どもにつきましては、国が何か変なことを言っておりますけれども、本当にそのエビデンスはあるのかということで、子どもさんには直接接種券を送っておりません。まず、どうですかと。慎重に考えてくださいよというものを送って、それでも接種券を送ってくださいという方には接種券をお送りしております。今度国の方針を若干変えましたが、それにもかかわらず、その方針を変えるつもりはありません。やっぱり子どもの場合は将来がありますのでね。まだ本当にどのぐらいで副反応が出るのか、よくわからんところがありますので、今度のメッセンジャーRNA はですね。ですから慎重な対応をしておりますが、打ちたいという方には打てるように段取りをしております。

そういう精神に基づきまして、長期的な副反応相談窓口ということで、看護師さんと名古屋の医師会さんに協力してもらっております。電話をかけていただいたらまずナースさんが対応して、それから医師会の方に送るということで、今相談件数が8月31日時点で1,485件ございます。そこから協力医療機関へ、これらの医師会で88人のドクターの方が受け付けております。1週間ぐらいたって頭がふらふらするとか、そういうような意味がよくわからんと。今までのパターンだと精神科に送られてしまうような状況の中で丁寧にフォローしていて、ドクターに行ったやつを、それからどうなったかについては今何らかの数値を出そうということでやっております。これはあまり、名古屋だけ名古屋だけと言うと感じ悪いかもしれないけど、名古屋だけの対応でございます。

それと、名古屋の某製薬会社を中心になりまして、ここには書いてありませんけど、イベルメクチンというやつですね。ノーベル賞を取られた先生が発見されたという、寄生虫や何かの薬です。それがやっぱり効くのではないかとということで、もう治験は1,000件を

超えました。この間、塩野義が延期になりましたね。今やっとするのは興和さんです。興和さんのイベルメクチンだけでございます。本当はもう出てくるはずだったんですけどね、1週間前に。これが早く厚労省にOKと言ってもらえるように、本当に心待ちにしておると。そうなりますと、これで一気にものすごい数の人が救われるというふうに期待をしております。

経済的な支援につきましては、30%お得ということで、5万円のお金を出していただきますと30%ですから6万5,000円になるという仕組みで、これが218億円の規模で発行しております、もう1万店舗を超えております。順調に消化しておりますので、これで少し、商売をやっとする人をまたさらに応援できるんじゃないかということでございます。

事業者支援だと、今度は1事業者あたり30万で、いろんな工夫をした人にはこれを、もちろん補助金ですけど、総額63億です。それから、実は名古屋は飲食店の倒産の数が、コロナの前とコロナの後は半分になっちゃいまして、減ったと。それで、ここにありますけど信長何とか基金といって、名前は忘れてまった(ナゴヤ信長徳政プロジェクト)。信長は経済を大事にした人ですので、総額7,400億円の現金が名古屋市内に供給されております。これは金融機関ともものすごく協力しまして、今400店舗を超える金融機関があつて、政府系の、信用保証協会等に行かんでもいいということで、大変皆さんに、こっちのほうは貸付ですけど、商売をつぶさんようにということで全力投球をさせていただいてるところでございます。以上でございます。

次は浜松市さんをお願いいたします。

(鈴木市長) よろしく申し上げます。久しぶりなリアル開催ということで、素晴らしい会場セッティングをいただきました河村市長並びに名古屋市の職員の皆様に、厚く御礼を申し上げたいと思います。

それでは浜松市の新型コロナウイルス感染症に関する対策について、お話をさせていただきます。2ページを見ていただきますと浜松の感染状況でございますが、同じように7月以降、BA.5への置き換わりによります第7波に入りまして、1日あたり最多感染者が2,000人を超える日がございました。現在は少し減少しつつあるということで、本日の発表は昨日の状況の反映でございますが、300人弱ぐらいの状態ですけれども、ウィークデイでも1,000人を切るようになってまいりました。病床使用率も50%ぐらいでございますので、大分落ち着きを取り戻してきているのではないかなと思います。

3ページを見ていただきますと保健所の対応状況でございますけれども、感染者数の急増によりまして、今年の5月からICTを活用した「LoGoフォーム」によります患者調査ですね。健康観察を導入するとともに、業務委託等によりまして、感染者数に応じた持続可能な保健所体制の維持強化に努めているところでございます。

4ページを見ていただきますと、ワクチンでございます。8月29日現在、3回目接種が65.31%、4回目接種が22.68%という状況でございます。接種体制については、浜松は比較的病診連携・病病連携が機能しておりますので、個別医療機関を中心に接種にご協力い

ただいております。集団接種につきましては現在、市内2カ所で継続的に実施をしております。

続きまして、経済対策です。ここは少し、浜松独自のことについてお話をしたいと思えます。最初、2020年の緊急事態宣言明けに、とにかく早く経済対策をやらなきゃいけないということで、キャッシュレスを活用したポイントバックキャンペーンができないかと。そこで各社にお願いをしましたところ、PayPayさんが1カ月で準備できるということでございましたので、PayPayと初めて7月からポイントバックキャンペーンを行いましたら、これが大成功をいたしました。これが今、全国に広がってきているわけでございます。私どもはこれまで4回実施をいたしまして、決済総額は約75億円ということで、関連産業などへの経済波及効果を考えますと非常に大きな経済効果を生み出すことができたなと思っております。

もう1つの特徴的な事業として、7ページでございますけれども、1億円キャッシュバックキャンペーンというものを、これも私のアイデアで始めました。飲食店の支援事業として、お客様に抽選で、飲食代を全額キャッシュバックするというものでございます。これは飲食店にある応募券とレシートを写メしていただいて、その場で応募してもらおうと、その日に抽選をして、当選しますとキャッシュをバックするというものでございます。これは最初、賛否両論ございました。役所がそんなギャンブルみたいなことをしてもいいのかとか、当たった人と当たらない人がいては不公平じゃないかとか、いろいろありましたけれども、やってみると飲食店も市民の皆さんにも大変好評でありまして、これまで4回実施をいたしました。

9ページを見ていただきますと、これまで4回やった合計ですね。私どもがキャッシュバックで使いました予算は約3億円でございますけれども、50億の経済効果を生み出すことができました。こういうキャッシュレスを活用した経済対策はスピード感をもってできますし、また、非常に経済効果も高いなという感じがいたします。

10ページですが、マイナンバーと連携したポイントバックキャンペーンも実施をしております。11ページは、今までは写メでキャンペーンに応募してもらっていたんですが、これをその場で抽選してポイントバックをしようということですね。これはd払いと楽天ペイの抽選機能を活用させていただきまして、今回はその場で当たり外れがわかるというものを、今度の新しい1億円ポイントバックキャンペーンとして実施を予定しております。

最後は12ページでございますけれども、これは浜松オリジナルのフードデリバリープラットフォームでございます。飲食店がコロナ禍で非常に大変だということで、店内飲食だけではなくてデリバリーとテイクアウトも、これからはデュアルになると思いたしたので、最初は大手のデリバリーの会社さんに、手数料を大幅に安くして浜松に合った仕組みをつくってくれないかといったら、けんもほろろに断られました。だったら自分たちでつくろうということで、官民連携でオリジナルのフードデリバリープラットフォーム、通称「FOODELIX」と呼んでいますけれども、これをつくりました。タクシー会社とか、いろん

なデリバリーの事業者さんに参加をしていただいて、大変安い手数料でデリバリーをするという仕組みを構築いたしました。これが、実は高齢者の買い物支援などにも使えるなということがわかってきましたので、これはコロナ後もいろんな事業展開に活用していきたいなと思っています。浜松市からの発表は以上でございます。

(河村市長) ありがとうございます。

それでは意見交換ということでございますが、ご意見がありましたら、どうぞ。では岐阜県知事、お願いします。

(古田知事) 大村知事にちょっと教えてもらいたいんですが、例の全数把握についての愛知県の取り組みについて、ご紹介いただければと思います。

(大村知事) 資料は用意してありませんが、私どもはHER-SYSへの入力、11項目を5項目にするということで、氏名、性別、生年月日と住所は市町村まで、それと電話番号で、8月31日から運用しております。とにかくファーストタッチで、陽性が確定をした方に対して、ホテルに入りますかという宿泊サービス、配食サービス、入院調整と、それからパルスオキシメーターを貸せますよという話と、あとはタクシーとかの移送サービスですね。そういったサービスがありますよということだけは、基本は携帯電話を教えてもらってショートメッセージで送って、そうでない方には電話番号をいただいて、電話で家まで連絡をします。そういうことでやっております。

国が統一的にやるということであればそれに乗っかりますけれども、それまではとにかく簡略化をして、いつ発症したとか、いつ検査を受けたとか、どういう症状だったとか、全部省きましたので、そういう意味では実際の手間は、もう4分の1ぐらいになっているんじゃないかと思っておりますので、そういった形でしばらくはショートメッセージで、とにかくファーストタッチはやるということにしていきたいと。ですから岐阜県さんと同じ方向だと思います。

(古田知事) もう1つ、いいですか。

(河村市長) はい、どうぞ。

(古田知事) 三重県さんにちょっと伺いたいのですが、9月11日までの状況を見て脱却の可能性というお話もされましたので、具体的にはどういう、厳密な基準はないんでしょうけれども、どういった状態になると脱却できるかということですね。そこら辺の目安みたいなものは今、現時点でどんなふうに考えておられますか。

(一見知事) ありがとうございます。私どもが以前から言っておりますのは病床使用率

で、50%が一つの目安になると言っております、今はちょうど、50%を出たり入ったりという感じでございます。ただ、これも前から言っているんですけど、ダウントレンドになれば50から多少上がっても、例えば51とか52になっても、やがては落ちてきます。今日の（新規感染者の）数字は、今まで2,500ぐらいの数字であったものが1,000を下回るという感じになってきております。いったん病床使用率が50を上回ったとしてもやがては落ちてきますので、ぼちぼち、あと1週間程度たつとおそらく大丈夫だと思われれます。端的にお答えだけ申し上げますと50を上回るか下回るか、そのあたりが水準にはなるということではあります。

（古田知事） たぶん月曜日は大体毎週落ちますので、私らはどっちかという火曜日にどういうふうのリバウンドするかと。火曜日の数字を見て、火曜日の数字が水曜日以降に続くのか、そこから減るのかという、そこら辺の週の半ばの流れですね。月曜日はどっちかという下がるのが当然なので、そこら辺も合わせて見ようということではありますよね。

（一見知事） よろしいですか。私どもも同様で、三重県の場合はどちらかという水曜日の数字が一番高いんですね。月曜日の数字だけ見ても、ここ3週間ぐらいを見てみますと、今日は830と申し上げましたが、1週間前は1,074、その前が1,744で、これもやはり徐々に下がってきていますね。ですので、おそらく（下がってくるだろう）という感じですよ。

実は私どもも9月4日の期限を延長するのかと議論しまして、2週間延長が基本としながら、だけど今、ちょうど1週間ぐらい前はかなりダウントレンドに入りつつありましたので、とりあえず1週間で様子を見ようかと。それで脱却できれば、すればいいと。逆に、2週間、3週間と設定しても、早めに脱却ができるのなら脱却をして、県民の皆さんに、これはあまり考えたくないんですけども、次にまた波が来たときには宣言を出さなきゃいけないと。あまり長いこと出すのもねっていうので、最終的に1週間という形にしたところでございます。仮に長くしておいても、途中でもうこれでいいということであれば、期限前にやめることも考えてはいたところでございます。

（河村市長） それじゃ、ほかにございませんか（特に意見なし）。

それではコロナのほうは取りまとめといいますか、この三県二市で情報交換をしながら、適宜適切な対策を取るということでよろしいですね（各知事・各市長、異議なし）。ありがとうございました。

<協議話題2>

（河村市長） それでは協議話題の2番ということで、「国内外誘客の戦略的回復に向けた取組について」でございます。これは三重県からのご提案でございますので、三重県知

事さんからお願いいたします。

(一見知事) 河村議長、ありがとうございます。

それでは、今度は観光のお話でございます。コロナが落ち着いてくると、今は県民割でどんどんお客さんに来ていただいているところでございますが、コロナが落ち着けばさらにインバウンドも増えてくるだろうということで、その前にやはり準備をしておかなければいけないと思っておりますので、提案をさせていただいたところでございます。浜松市さんとの関係では今回初めてご挨拶をさせていただきますが、観光の関係でもこれからぜひ連携を取らせていただければと思っております。鈴木市長、ぜひよろしくお願い申し上げます。

それでは、三重県の資料について説明をさせていただきます。表紙の左側にポケモンの絵が描いてあります。これは去年、株式会社ポケモンさんと契約をさせていただきまして、三重県を応援するポケモンということで、ミジュマルはその後映画になったり、ゲームの主要級になったりもしましたけど、こういったもので三重県をまたぜひPRしていきたいと思っておりますのでございます。

1 ページをご覧ください。三重県には観光誘客のポテンシャルが、非常にたくさんのものでございます。ここに挙げきれないものがございまして、左側の伊賀忍者、これも全世界に通用するキラークンテツでございます。右側の関宿は東海道五十三次の宿場町です。鈴鹿サーキットでは今年、F1 も久しぶりに開催をされます。伊勢神宮については申し上げるまでもないところでございます。それから、食材も非常に立派なものがございまして、松阪牛が左側でございますし、右側には伊勢エビ、海産物を挙げています。さらには観光で、左下の熊野古道も見逃すわけにはいきません。

宿も、徐々に高級感のある、富裕層向けの宿が増えてきております。右側の下から2 段目はアマナムでございます。これは日本に3 つしかない、海女の宿でございます。御宿 The Earth は、G7 のときにカナダのトルドー首相がご夫婦で前泊されて、非常に好評を博したものでございまして、一番下の志摩観光ホテルは申し上げるまでもなく、G7 を開催したところです。左側の真ん中に VISON というのがございまして、これは多気にあります複合型の観光施設で、多くの、愛知県の方や大阪の方、いろんな方においでいただいております。

おかげさまでこの夏、コロナ禍の中でも、一部の主要施設の集計ですが、去年と比べて約2 倍の誘客数で、これはコロナ前の85%でございます。鳥羽水族館とか、あるいは志摩スペイン村はコロナ前と比べても120%ぐらい増えておりますので、そういうことでどんどん人が来ているというところでございます。ただ、これから増えてくるインバウンドを目前にして、できましたら各県・各市で連携を取らせていただきたいというのが、本日の提案でございます。

2 ページをご覧くださいと思います。今後、大村知事にお骨折りをいただいておりますリニアができますと、ますますこの地域は連携が取れるようになってまいります。リニアに対して、私どもは「成長の回廊(コリドー)」と名前をつけて、そういうものができ上

がったらと思えます。

また、地形的な部分だけではなく、タイムスケジュールを見てみますと、2 ページの左上にございますけれども 2022 年、今年は、後でご説明があると思えますが、大村知事のところでジブリパーク開園がございます。また、アジア競技大会は 2026 年で、その前の 2025 年には大阪・関西万博もございます。2033 年には、伊勢神宮の次期遷宮が予定されております。こういった時間的なものも使って行って、各地域がともに発展をしていくべきだろうと考えております。交通ネットワークもリニアだけではなくて、道路網も非常に便利になります。また、これは関西であります、2027 年には、大阪・関西万博の次にワールドマスターズゲームズ関西もあります。

ぜひ周遊と、長期滞在を促進したいと、私どもは考えているところでございます。観光は、「つなぐ」ということが一つのキーワードだと思っております。1 ページで見ていただいたように、三重県は地域資源と宿泊、宿泊と体験、こういったものをつないでいこうと考えておりますが、地域の連携ということも非常に重要だと考えております。また、サステイナブル観光というのがやはり観光の世界では大事でございまして、観光による弊害がまた出てくる可能性はありますが、そういったものを避けながらやっていくためには滞在型のゆったりとした観光が必要だろうと考えます。

3 ページをご覧ください。単にものを見て、ものを買って帰るということではなくて、「長期滞在型の観光」を私どもはこれから志向していこうと思えます。熊野古道を舞台にした、富裕層を対象にした観光でございます。あるいは、志摩の海女の体験もそうございます。次にございますのは高田本山専修寺での特別拝観です。こういったものを体験物としてやっていきたいと思っておりますが、サステイナブル観光を標榜しまして、進めていきたいと考えているところでございます。オーバーツーリズムを避けながら観光客にも楽しんでもらい、かつ、観光地域に裨益をもたらすということを考えているところでございます。

その上で、先ほど申し上げましたさまざまなイベントがこれから考えられますので、この地域でお客様に周遊していただけるように、そういったところでぜひ連携を取らせていただきたいと思えます。以上ございます。

(河村市長) ありがとうございます。

この件につきまして順次ご発言ということですが、先ほどとは逆に、浜松、名古屋、愛知、岐阜という順番でご発言をお願いします。それでは浜松から、4 分程度でお願いします。

(鈴木市長) 一見知事から、各地域の連携の重要性、必要性についてのご発言がございました。私どもは、今日の資料には入っていませんけれども、今、食を生かした、浜松を日本のサン・セバスチャンにしようという取り組みをスタートさせていまして、実は VISON さんと連携できないかということで、先日も VISON の社長に浜松へお越しいただいております。

まして、そんな関係性が出てきています。私は若いころにちょっとした会社をやっています、そのときに最初のクライアントが伊勢の赤福さんでございまして、濱田家には大変懇意にさせていただいていますし、ひょっとしたら私はおかげ横丁でやっていたかもしれないというご縁もあるので、実は伊勢に対しては個人的には大変思い入れがあると。そういう関係でございまして。ぜひこれから、また三重県さんともしっかり連携をさせていただきたいと思っておりますけれども、私からは最近の浜松の取り組みについてご紹介をしたいと思っております。

1 つは、2 ページにありますように「フィルムコミッション」の活用でございまして。フィルムコミッションは各地域でも積極的に活用されていると思っておりますけれども、我々も今大変に力を入れておりまして、映画、テレビ番組、あるいは CM のロケ地撮影等の誘致でありますとか、あるいは番組自体に浜松を取り上げていただくという取り組みを強化しております。おかげさまで今は強力な職員を取り組みの担当にしておりますので、毎年毎年この数が増えておりまして、2021 年には「弱虫ペダル」という映画のロケ地になり、これが非常に評価をされまして、JFC（ジャパン・フィルムコミッション）アワードの最優秀賞と、ロケーションジャパン大賞特別賞を受賞させていただきました。今年はやはり「ゆるキャン△2」と映画の 2 作品で、JFC アワードの優秀賞を受賞させていただきました。

こうしたロケが増えていくにあたって、いわゆる聖地巡りの観光客の皆さんがどんどん増えておりまして、やはり映画のロケ地、テレビのロケ地にすると、かなりいろんな誘客ができるなど。最近では世界配信の作品も増えておりますので、まさにコロナが終息したらインバウンドの誘致にも、大きく貢献してくれるのではないかと考えています。

昨日も、実はトライアル逆参勤交代というのをやりました。これは三菱総研の松田さんという方が提唱されておりまして、ワーケーションなどで交流人口を増やしていこうという取り組みですけれども、そのトライアルを浜松で昨日やったんです。その中に、いわゆる映画のオタクの方がいらっしまして、ゆるキャンの聖地を巡る旅をしていたと。彼が言っていたのは、ゆるキャンのファンはそこに何回も行くので、同じ店で食事をするのもあれだから、また別の店も紹介するといいいんじゃないとか、ゆるキャンで使ったメニューを御当地メニューにするとファンが喜ぶとか、いろんなアイデアをいただきました。有名な映画やテレビ番組の撮影を誘致すると、大きな経済効果を生むことができるのではないかなと思っております。

2 つ目は来年の大河ドラマの活用で、3 ページでございまして。来年の大河ドラマは「どうする家康」でございまして、これは今までの家康公とは違った取り上げ方をすることで、特に青年期の家康公が織田とか今川とか武田の大大名に翻弄されながら、悩み苦しみながら成長を遂げていくと。そういうドラマということでございまして、実はちょうどその時期が浜松時代にぴったり符合をいたします。浜松に、家康公が 29 歳のときに三河から来られるわけですが、そのときはたった 5 万石の小大名だったんです。けれども浜松から江戸へ出ていくときには、甲斐、駿河を平定し、三河、遠州と合わせて 100 万石の大大名になったと。いわゆる浜松時代に天下統一の礎を築いたということで、来年は好機

なんですね。

今、大河ドラマを使った地域振興に取り組んでいるところでございます。そこに大河ドラマ館のちょっとした図が出ていますけれども、ちょうどお城のすぐ下に、小中一貫校にしたことで廃校になった小学校の跡地がございまして、ここに大河ドラマ館を建設いたします。駅から1キロ程度のところでございますので、まちなかを回遊しながら多くの皆様を導いていきたいなと思っています。

4ページを見ていただきますと各地域との連携でございまして、この大河ドラマ館は浜松だけではなくて、家康公ゆかりの地ということで岡崎市と静岡市にもできるわけでございます。今、この三市連携によります共通チケットの作成と、デジタルスタンプラリーの実施等を検討しておりまして、それぞれライバルでありながら連携して、盛り上げていこうという取り組みをしております。

5ページに行きますと、これも地域との連携でございまして。特に四天王に着目をいたしました。酒井忠次、本多忠勝とか、そこに四天王が出ていますけれども、その四天王ゆかりの地、全国の自治体と連携をしていこうということと呼びかけて、今取り組みをしているところでございます。

今日のご参加の三県二市も大変家康公にゆかりの深い地域でございまして、ドラマの中ではいろんなクライマックス、重要な場面が出てきます。例えば伊賀越えは、来年のドラマの非常に重要なシーンになるそうでございますので、これはまさに三重県さんと連携ができると思いますし、家康公ゆかりということで名古屋市さんもそうでございます。この三県二市の皆さんとも連携しながら、来年の大河ドラマを活用して観光誘客に努めていきたいなと思っていますので、ぜひご協力をよろしくお願い申し上げます。浜松市からは以上でございます。

(河村市長) ありがとうございます。そうしたら名古屋でございまして。

名古屋は大変に、実は責任が重いということで、リニアの駅がつくってもらえるものですから、何だかんだ言って7,000万人ぐらいの交流圏の中心になるということですので、よっぽどおもしろくせないかんぞと云うわけ。ただ乗換が便利になるというだけではなっとらんということで、実際に名古屋で1泊、2泊してもらおうと。そういうものがつくれるかと。もともと熱田神宮をはじめとして歴史的な遺産等は十分ありますので、そういうことでございまして。

とりあえず、MICEということになりますと、今やっとなところが国際展示場、国際会議場で、大いに使いやすく、名古屋駅から近いですから皆さんにご利用いただくということです。それからアジア・アジアパラが行われますので、これも精いっぱい楽しいものにしていって、また残った体育施設、アリーナですか、やっぱり市民の皆さんが喜んで使えるように、世界一のやつをつくるまいかと。

名古屋の魅力といいますか、お城のほうは今年度中には正式に木造復元になります。こんなどえらい大きな木造建築物は、世界に一個しかありません。国宝一号でやっています。

姫路城じゃありませんので、名古屋城ですからね。名古屋が昭和5年、姫路は昭和6年ということでございます。図面があるということでございます。既に木は切っておりまして、全部を3階建てにできるという、これはものすごいものです。そういうことでございます。

これができると、まあ、名古屋人がもっとまちにプライドを持つようになりますね。今だと名古屋って何だという、道路が広いがやと。道路が広いがやではなっとらんの。ということで、このシンボルに自信を持てるようになるんです。お城の木造復元は貴重な引き金ですけど、それをスタートとして、新しいものができますので、ニューヨークやロンドンやパリからも名古屋へ来ていただいて、平均2泊していただいて、皆さんのところへいろいろ行っていただけるようにするのが名古屋の義務だと思つとるところでございます。

それから、ここに書いてありますけど「シャチ泊」とか、いろいろなこともやっておりますけど、魅力をつくらないといかんもんだでね。僕個人で言いますと、やっぱり熱田神宮をどうやって盛り上げるかと。三重県知事さんがおみえになりますので、また伊勢神宮とで楽しくやるとええんですけどね。本物が名古屋では草薙の剣がありますので、最も魅力のあるものになると思います。

尾張藩の連携事業ということで、こんなことばかり言つとると感じ悪いんですけど、御三家筆頭で尾張藩はありまして、岐阜も岐阜城の辺は尾張藩だったし、ずっと岐阜県の山奥に入っていくところも尾張藩だったわけです。ヒノキを家康がプレゼントしてくれているので、それが豊田につながっていったんだと。木工美術館ですね。ということでございますので、ぜひ尾張藩の連携をやっといこうということです。

あとはセントレアも大いに盛り上げて、皆さんがぜひ尾張藩というか、伊勢湾地区ですか。伊勢湾地区というと浜松がいかんか。そうでもない？ 家康のおかげで盛り上がりましたね。家康は何か浜松の人みたいに言われましたけど、名古屋ともいい関係を持っておりまして、名古屋城をつくったのは家康です。名古屋のまちをつくったのは家康なんですよ。ということで、リニアの駅をつくっていただけるという義務を果たしていきたいと。魅力を盛り上げるということでございます。ありがとうございます。

そうしましたら、次は愛知県でございます。お願いします。

(大村知事) それではお手元の資料をご覧いただきながら、お聞きいただければと思います。

愛知県内における国内外誘客の取り組みで、まず1ページです。愛知観光戦略を策定しておりまして、愛知ならではの「ツウ」な魅力、「ツウ」リズムということで、いろんな地域資源を磨き上げていきたいということでやっております。

その中で、今日は2つ大きなものを申し上げますが、1つは2ページのジブリパークでございます。ジブリパークは5つのエリアを整備いたします。どこにということですが、万博公園は200ヘクタール近くある大変広い公園であります。そのうち、例のマンモスがあった温水プールは、フロンが使えなくなり廃止しましたので、その跡をどうしようとい

うことで、何か屋内の施設にするかなと思っていたところへこれが来たので、要は空間だけを活用して、中の設備は全部変えまして、「ジブリの大倉庫」という形にいたしました。あの中に展示施設や美術館、映画館みたいなものを全部つくりまして、「ジブリの大倉庫」は展示面積だけで 3,000 平米ありますので、「三鷹の森ジブリ美術館」の 4 倍あります。なので、これは本当に見応えがあるものになろうかと思えます。

そして、「青春の丘」では『耳をすませば』の「地球屋」が原寸大で出てきます。中まで含めて、バイオリン工房からバロンまで全部再現しており、ほぼ全部できました。あとは「どんどこ森」で、「サツキとメイの家」が万博でもありましたが、何とか残していただきました。あの裏山まで周遊できるようにして、そこに 5.2 メーターの木造のトトロを、世界で初めてトトロのモニュメントをつくるということです。その 3 つをこの 11 月にオープンし、あとの「もののけの里」と「魔女の谷」は来年度にオープンしていくということで、一期、二期とやっていきます。10 月の内覧会には皆様をご招待いたしますので、またぜひお越しただけたらと思えます。11 月 1 日オープンで、しっかり盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

次は 3 ページですが、ジブリパークをフックとした周遊観光ということで、「風になって、遊ぼう。」が表紙のパンフレットをお配りしております。「風になって、遊ぼう。」は、女の子が、サツキとメイの家に向かって走っていくという姿が描かれています。これは動画にもなっており、初めてスタジオジブリさんが手がけた観光動画です。パンフレットでは、愛知県内の観光として 10 のコースを紹介しながら、PR をさせていただいております。

あとはジブリパークのチラシと、10 月 29 日から「ジブリパークとジブリ展」というのを愛知県美術館でやります。今は第 1 回ということで 7 月の半ばから長野県立美術館でやっておりまして、大変好評ということでございますが、その第 2 回が愛知県美術館で、次は熊本へ行って、神戸へ行って、山口県立美術館ということですが、そういう形でしっかり PR していきたいと思っております。

2 つ目に、先ほどからお話がありましたが、大河ドラマ「どうする家康」が 2023 年 1 月から放送されます。それに向けた愛知県大河ドラマ「どうする家康」観光推進協議会を設立しました。私ども愛知県では大河ドラマで予算を計上したのは初めてです。大体 2~3 年に 1 回来るということでありましたが、初めて協議会もつくって、県内の市町村、団体の皆さんに声をかけたらほとんどのところから手が挙がって、何かやろうということになりましたので、共同で PR をしていきます。

そして大河ドラマ館は、岡崎公園の中の三河武士のやかたを改修するというので、中身を一回出してやります。名古屋城の前の金シャチ横丁では、名古屋市さんと県が共同で大河ドラマ展をやって、ちょっと小ぶりですけども、連携ができればと思えます。浜松市さん、静岡市さん、関ヶ原町の岐阜県さんともしっかり連携をしながら、また、三重県さんでもたぶんクライマックスで非常に大事な場面が出てくると思えますので、そうした点で大いに連携をしてやっていければと思っております。

最後は海外向け観光ということで、観光プロモーション事業です。まだこれからですけ

れども、しっかりとアピールをしていきたいと思ひます。6 ページはアジア競技大会・アジアパラ競技大会で、またこれも着実に進めていければと思ひております。いずれにしても、今年にはジブリパークのオープンということでありまひすので、それに向けて私どもは全力で取り組み、また、ここを起点にいろいろ周遊していただければいいと思ひます。ぜひ皆さんと一緒に PR ができればと思ひますので、よろしくお願ひいたします。以上です。

(河村市長) それでは岐阜県さん、お願ひします。

(古田知事) ありがとうございます。この観光は、まさに連携の最も重要なテーマに思ひていただいているところで、お伝へしているように、今日のお話を聞きながらさらに具体的な連携の展開をできればと思ひております。

岐阜県の資料をご覧いただきますと、やはりコロナの影響で延べ宿泊客数が、とりわけ外国人の延べ宿泊客数が激減をいたしまひして、ここからどういふふうに戻していくかということでありまひす。先ほど三重県さんからご紹介がありまひしたけれども、私どもは「ほっと一息、ぎふの旅」といふ割引キャンペーンをやっております。令和4年で宿泊者数は40万人近く、クーポン券利用数が43万人近くで、間違いなく観光の下支え効果になっているということでありまひすが、地域ブロックに拡大した後、急増いたしてあります。特に7割が県外からということ、愛知県をはじめ三重県、静岡県さんからも大いに利用していただいているところでございます。

次のページは、私どもが手を入れている今の大きなテーマの一つが「サステイナブル・ツーリズム」といふことで、要は世界に認められる持続可能な観光地づくりです。まさにサステイナブル・ツーリズムとはグローバルスタンダードでやるという認識でございまひす。国連に絡んだ国際認証機関のグリーン・デスティネーションズといふ組織なんです、そこが毎年「世界の持続可能な観光地100選」を選んであります。2020年に白川村、昨年は長良川流域を選んでいただいております、まさにサステイナブルという観点から私ども自身も「NEXT GIFU HERITAGE」といふ、岐阜未来遺産の認定制度を新たに創設しよう。その認定基準を世界のサステイナブル・ツーリズムの水準に合わせるということ、世界に通用する、資源の組み合わせ、それから国際指標プラス岐阜県らしさということ、今鋭意作業をしているところでございまひす。これが一つの政策ということ、

もう一つは、次のページでありまひすが、今日話題になってあります戦国・武将観光ということ、私どもは令和2年10月に、関ヶ原の古戦場記念館を開館いたしてあります。これだけではなくて、関ヶ原は誰もが知っているけれども誰も行かないところということでありまひしたので、誰もが訪れるところ、各陣地の跡地でありまひすとか、それぞれの軍の分布でありまひすとか、散歩、ウォーキングコースとサイクリングコース等、さまざまに手を入れている、コロナ禍で人数制限はしてありますけれども、特に県外から59%がおみえになってあります。県外からの内訳では半分強が愛知県、1割ほどが三重県で、ここには書いてないですが、静岡県が2%ぐらいですか。もっともっとおいでい

ただけるのではないかと思っております。

戦国・武将観光というのは、やはり点ではなしに線から面へということで、岐阜県プラス県内の 20 の市町が組んで、戦国・武将観光推進連絡会を昨年つくって連携を取りつつあります。これに、三県二市の連携といったアプローチも考えていければいいと思っております。ちなみに平成 29 年に、愛知・岐阜広域観光推進協議会というものがあまして、それは両県と両県の観光団体を中心に歴史観光、武将観光、産業観光のスタンプラリーをやっているんですが、こうしたこともさらに膨らませていければいいんじゃないかなと思っております。

それから関ヶ原も、大変さまざまなイベントをやっております。今年は 3 年ぶりということで、コロナで途絶えておりましたけれども、「大関ヶ原祭 2022」を開催いたします。お手元にパンフレットをお配りしておりますが、そのハイライトが「関ヶ原 夜想語」、夜のナイトプロジェクトでございまして、ぜひお時間がございましたらご案内させていただければと思っております。

大河ドラマに関係しては、これから承久の乱に鎌倉殿が実際に入っていきますけれども、承久の乱のまず舞台地は岐阜なんですよね。お手元に「承久の乱の舞台地 岐阜」という資料をお届けしておりますが、木曾川沿いで一戦を交えているわけですね。ここで情報網を打ち破って京都へ攻め入るということで、関ヶ原と同様に天下分け目の戦いが、まずは岐阜で行われたということです。それについてもっと広く知っていただくということで、こういうパンフレットをつくって配っているところでございますが、ゆかりの地の PR をやらせていただいております。

徳川家康については既に NHK の大河ドラマで、皆さんも関ヶ原のほうにもおいでいただいて、いろいろと見ていただきましたけれども、私どもは大河ドラマ館じゃなくて大河ドラマ展をやらせていただくということであります。実は一昨年の『麒麟がくる』も、大河ドラマ館を用意して相当な誘客を期待しておりましたが、麒麟も来ましたがコロナがやってきまして、おかげで当初のもくろみからはちょっと外れてしまったという経緯がございましたので、コロナが去った後の大河ドラマであってほしいなど、常に常に思っております。

既に名古屋駅で愛知県さんや岡崎市、清須市と合同で PR ブースを設けてありまして、徳川家康の PR をいろいろと今やらせていただいております。ぜひ浜松市さん、あるいは名古屋市さんとも一緒に、さまざまな連携プランを考えていけたらと思っておりますのでございます。私のほうからは以上です。

(河村市長) ありがとうございます。承久の乱はどこでやったの？ 木曾川の場所は・・・。

(古田知事) これは木曾川沿いの、今の岐阜で言えば美濃加茂とか可児とか、あの辺の大井戸の戦い、大豆戸(まめど)の戦い、それから西のほうへ行って墨俣から不破関(ふ

わのせき)のほうへ行くんですが、ことごとく幕府軍が勝って進軍しているんです。その進軍の延長で京都に入ったということでもあります。そもそも鎌倉幕府軍としては、迎え撃つと負けるかもというので、いろいろあって、まずその証明書(安堵状)を岐阜で授かったということなんですね。

(河村市長) そのころはまだ尾張名古屋は出てこん?

(古田知事) 尾張名古屋はちょっと北のほうでやっております。

(河村市長) 中山道のほうが主力だったんですか。

(古田知事) そうですね。そういうことですね。

(河村市長) ありがとうございます。ご意見はいいですか(特に意見なし)。

それでは座長取りまとめと書いてありますが、まあ皆さんでこういうことをやりながら、ひとつお客さんにようけ来ていただけるように努力しましょうということで、いいですか(各知事・各市長、異議なし)。それじゃあ、そういうことでお願いします。

<報告事項>

(河村市長) 続きましては、昨年度の会議の合意事項について報告を行います。詳細につきましては資料を配付させていただいておりますので、配付をもってご報告に代えさせていただきます。

<PR 事項>

(河村市長) 最後になりますが、それぞれ皆様からイベント等の PR をお願いします。ではまず愛知県さん、お願いします。

(大村知事) 先ほども申し上げましたが、ジブリパークオープンを 11 月に予定しているということと、またアジア競技大会・アジアパラ競技大会も実施していきます。以上です。

(河村市長) 浜松市さん、お願いします。

(鈴木市長) 私どもも先ほどご説明しましたが、11 月には大河ドラマ館が完成いたしましたので、1 月から開館予定でございます。また皆様にご案内をさせていただきますので、ぜひご来場いただきますようお願い申し上げますとともに、各地域との連携をよろしくようお願い申し上げます。以上でございます。

(河村市長) 三重県さん、お願いします。

(一見知事) 河村議長、ありがとうございます。資料の中で、三重県は4つ出しています。その中から2つ申し上げます。1つは、一番上に「観光三重」という資料がございます。パンフレットでありますけれども、特集は三重県の秋祭りでございます。今年の夏、三重県各地で花火が復活いたしました。多くの方に見ていただきましたが、この秋も昔の宿場町などで盛大な祭りが行われますので、ぜひおいでいただきたいというのが1点です。

他にも、「NARIHIRA」というブローシュアが入れてあると思います。在原業平です。『伊勢物語』の舞台は、高校のときに習ったのは東国だろうということで、何で伊勢物語という名前なのかなと思っておられる方も多いと思いますが、実は業平が伊勢神宮をお祀りする斎宮に、その場所に来て、そこでロマンスが展開されるわけです。最初に伊勢に来て、恋物語があったということでございます。絶世の、希代の美男子と言われた在原業平のラブロマンスの、実はきっかけが伊勢であったということで、『伊勢物語』と名前がつけられたと聞いております。斎宮は、三重県の明和町であります。そこに斎宮跡を再現しつつあります。歴史博物館でもございまして、10月から11月まで業平展をやりますので、ぜひおいでいただきたいと思います。

先ほどから大河ドラマのお話がございます。次の大河ドラマは家康公でありますけれども、三重県の伊賀でございますとか、桑名も非常に大きな関係がございます。どうも聞くところによりますと(その)次の大河ドラマは平安朝ということで、『源氏物語』あたりが舞台になるんじゃないか、主題になるんじゃないかと。明和町あるいは伊勢も絡んでくるのではないかと、期待をしているところでございます。それを先取りする形でございますけれども、ぜひ皆さんにおいでいただきたいと思います。以上でございます。

(河村市長) その他の県市については、資料配付にて代えさせていただきます。

三重県が先ほど言いましたが、伊勢神宮さんと熱田神宮とどっちが立派だということで、論争が結構あったんです。熱田神宮が負けました。伊勢神宮のほうが立派になったということでございますので、またそういう取り組みも考えると楽しいかなと思っております。

<閉会>

(河村市長) それではちょうど時間となりましたので、ぜひいろいろ情報交換しながら、ますます地域を盛り上げていきたいということでございます。そういうことでよろしいですか(各知事・各市長、異議なし)。